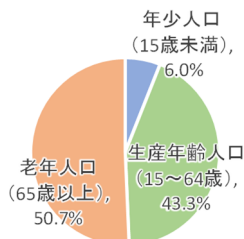


熊谷 (くまだに)

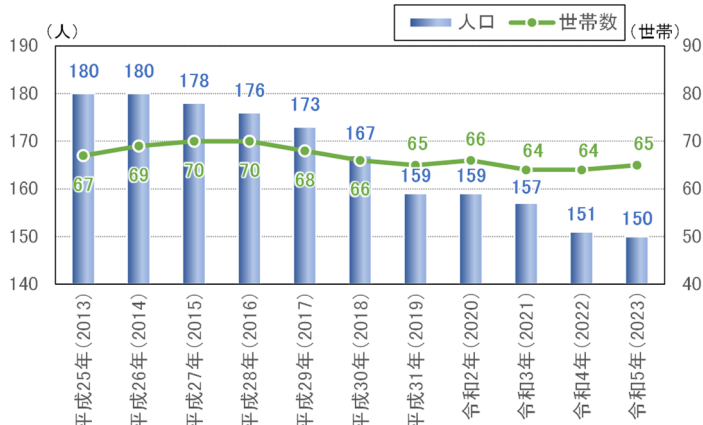
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	150人
世帯数	65世帯
高齢化率	50.7%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落は、西側に流れる熊谷川沿いに家屋が建ち並び、南北に山が迫る山間地域に位置する。仁蓮寺・栃谷口・神田・大熊の4集落からなる細長い農山村で、田畑は少ない。川に並走して県道久斗山今岡線が走る。

地名由来 入り組んだ『曲(くま)の谷』であるためとされる。(「たじま地名考」日本海新聞)

歴史等 熊谷川沿いには小型の群集墳が多く、善住寺には室町時代の文化財が多く残されており、熊谷・伊角・檜尾・春木への脇街道が残る。近世の熊谷村は、もとは因幡国鳥取城主宮部氏領で、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。享保13年(1728)の宗門改帳によると、家数89・人数378で、4軒の年寄を大熊・神田・栃谷口・仁蓮寺の各集落に配していた。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は137石余。熊谷では、金堀鉱山跡やたたら製鉄が行われていた。

明治22年(1889)温泉村の大字となり、昭和2年(1927)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数99、人口は男283・女273。

これまで把握している文化財

文化財の件数 72件 (うち指定等文化財 3件)

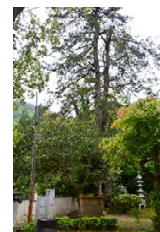
大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	3	1
		石造物	4	1
		工作物・その他の構造物	2	0
		彫刻	12	1
	美術工芸品	絵画	0	0
		工芸品	7	0
		書跡・典籍	0	0
		古文書・歴史資料・考古資料	2	0
無形文化財	音楽	0	0	
	演劇	0	0	
	工芸技術	0	0	
	その他の無形文化財	0	0	
	信仰の場	5	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	祭具	0	0
		民具	0	0
		その他の有形の民俗文化財	0	0
		年中行事・民俗芸能	1	0
		民俗技術	0	0
	無形の民俗文化財	食文化	0	0
		民間話説・俗信	4	0
		その他の無形の民俗文化財	0	0
		散布地・集落跡・生産遺跡	2	0
		古墳・その他の墓	24	0
記念物	遺跡	城館跡・寺社跡	1	0
		街道・古道等	0	0
		戦争遺跡	0	0
		その他の遺跡	0	0
		山岳・高原・丘陵	0	0
		海岸・海浜・島嶼	0	0
	名勝地	河川・滝・溪谷・湖沼	0	0
		公園・庭園	0	0
		その他の名勝地	0	0
	動物・植物・地質鉱物	動物	0	0
		植物	5	0
	地質鉱物	0	0	
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



阿弥陀堂



木造阿弥陀如来坐像



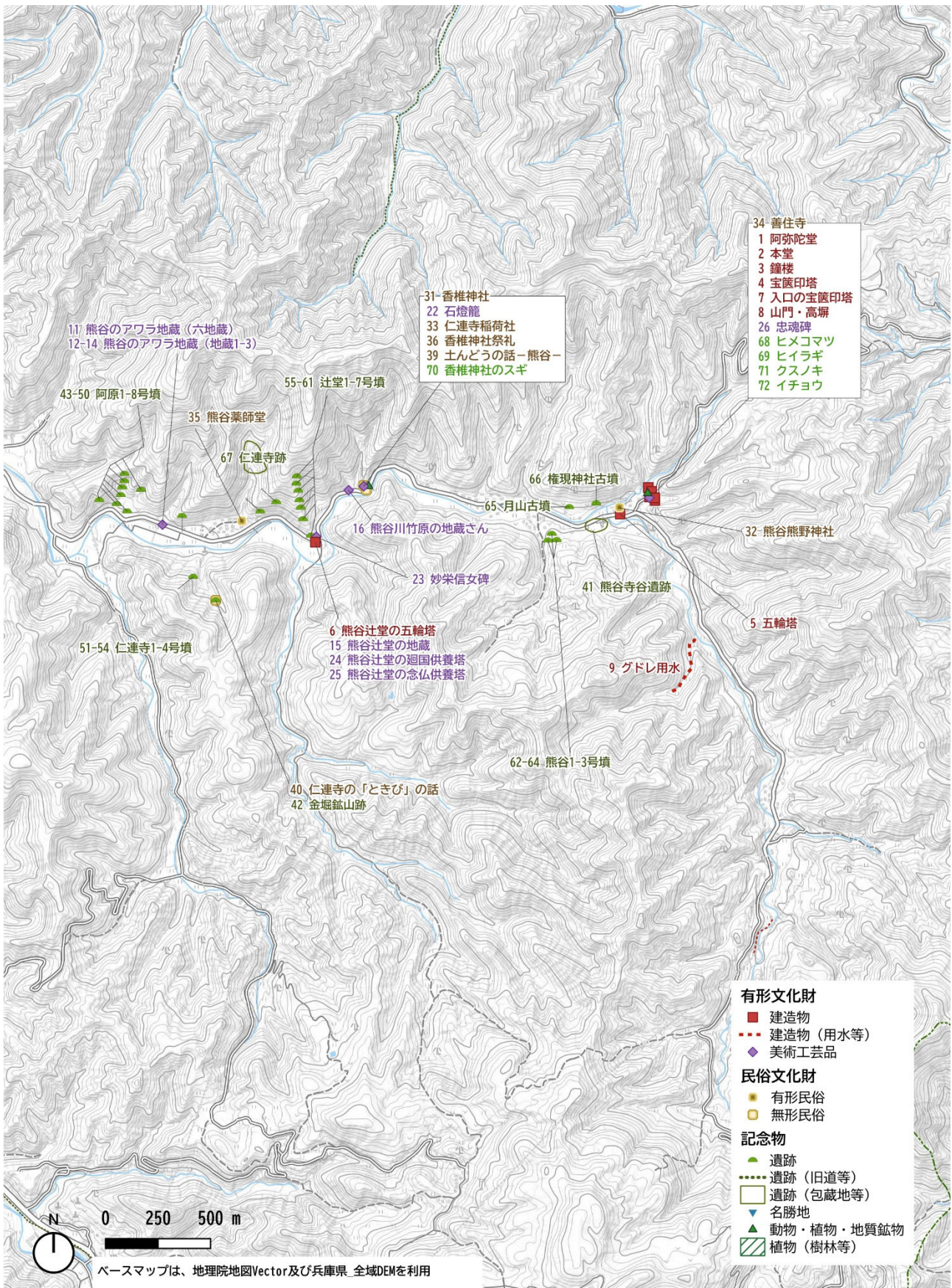
ヒメコマツ・ヒイラギ



土んどうの話(地藏)

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

4-10 熊谷

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	阿弥陀堂	応永33年(1426)11月15日に建立されたと言われ、安永6年(1777)に現在地に移築されたと伝えられる。その後、補修をみているが、但馬でも屈指の古い建物である。二間四方三面回廊を巡らし、斗拱や虹梁、臺股などの彫刻は、室町時代初期建築の細部手法の特徴がよくうかがえる。昭和35年(1960)に神戸大学野地博士の設計、関西学院大学武藤博士、兼教育委員会の指導により、屋根を創建時の姿に復元修理し、昭和40年(1965)に本堂とともに銅板葺きとした。天井に極彩色に描かれた釈迦を中心とした十六羅漢の仏画は、作者不詳ながら、狩野派に属する巧妙な筆法で希有なものと評されている。 町指定文化財
	2	善住寺本堂	現在の本堂は、眞乘法印が元禄焼失の本堂再建を発願して、宝暦12年(1762)4月に再建されたものである。本堂と庫裏は別棟とすることが一般的であるが、当寺は本堂と庫裏を一体としている。寺院建築の華麗さはないが、木訥とも思える様式技法は地方統領の手によって建築されたものと思われ、雪深い土地柄と茅葺屋根の維持管理の容易さを求めた独特の様式と思われる。欄間には丹波柏原の彫物師中井権次の彫刻がみられる。昭和40年(1965)、他の建物とともに大改修され、屋根を銅板葺きとする。
	3	善住寺鐘楼	建立年は不明であるが、梵鐘銘文から寛文元年(1661)には既に建立されていたと思われる。近世城郭石垣を思わせる上部に返りを持たせた切り石積み高石垣(後年補修されたと思われる)基壇の上に建ち、入口が門のように造られ、枅組、彫刻その他に古い手法を見せている。優美な鐘楼で、元禄火災の時に焼失を免れた建造物の一つと思われる。
石造物	4	宝篋印塔	総高104cmで下部は現在、コンクリートで基壇を形成している。上部の九輪、笠部は6段式、中央の塔身には月輪内に、金剛四仏が刻まれている。この様式から見て、造られたのは室町時代中期と思われる。この時代の宝篋印塔は個人の墓塔ではなく供養塔として建てられたものと思われる。 町指定文化財
	5	熊谷大熊権現堂(熊谷熊野神社)の五輪塔	125×39cmの石塔。大熊権現堂の入口に立つ。外形は整っているが、空輪が一部割れている。移転した際に水輪の上下が逆さになったものと思われる。鎌倉時代建立。
	6	熊谷辻堂の五輪塔	高さ約45cm。字辻堂の県道脇の石碑の横にある。数度の道路改修により、現在地に移したものの。
	7	善住寺入口の宝篋印塔	善住寺入口にあるが、もとは熊谷川付近(字大辻尾の川向う、コバン谷川と徳谷川のやや中間、昔善住寺所有地にあったもので、近代には中村氏所持地の畔に移されていた)にあったもの。凝灰岩製で風化が激しく、相輪は伏鉢を残して上部を欠く。
工作物・その他の構造物	8	善住寺山門・高塀	文化5年(1808)2月から4月にかけて、荒廃腐朽していた高塀を建立し、山門も改築された。この時、本堂をはじめ、他の建物や境内も修理・整備されている。
	9	グドレ用水	近世以前に築造された水路。水路延長300m、灌漑面積1.50ha。取入口はグドレ339、排水口は熊谷川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	10	木造阿弥陀如来坐像	檜の一木造りの坐像で、前面に組み合わせた手指は、親指が横に向出ている中品の形となっている。高さ76.5cm、素朴な彫りは地方仏師の作か室町初期と推定されている。その他、脇立仏として西国三十三体観音、薬師如来二天王も祀られている。 県指定重要有形文化財

分類	番号	名称	概要
彫刻	11	熊谷のアワラ地蔵(六地蔵)	仁連寺の下 20mの県道沿いに立つ石像群。42×97cm の石像。6 体の地蔵が彫り出されている。左端に「久右エ門」と彫っており、右端には享保 11 年 (1726) 8 月に建立されたことが記されている。
	12	熊谷のアワラ地蔵(地蔵 1)	仁連寺の下 20mの県道沿いに立つ石像群。50×30cm の石像。六地蔵の左隣、石像群の一番左端に立つ。
	13	熊谷のアワラ地蔵(地蔵 2)	仁連寺の下 20mの県道沿いに立つ石像群。59×28cm の石像。六地蔵の右隣に立つ。
	14	熊谷のアワラ地蔵(地蔵 3)	仁連寺の下 20mの県道沿いに立つ石像群。35×30cm の石像。石像群の一番右端に立つ。金堀口にあったが、道路拡幅のため、ここに移したものである。
	15	熊谷辻堂の地蔵	辻堂の県道の曲がり角に石碑や地蔵が整列している。93×55cm の石像(地蔵像)。光背正面に「熊谷村持 明治三十九年六月吉日 世話人 中土井林太郎」と刻んである。明治 39 年 (1903) 6 月建立。
	16	熊谷川竹原の地蔵さん	48×28cm の石像。香椎神社の下約 50mの県道沿いに立つ。損傷が著しい。
	17	仁連寺の地蔵	仁連寺公民館の中に祀られている。82×34cm の木像。かつて辻堂の古堂にあったが、堂が焼けたため昭和 10 年 (1935) 頃に仁連寺(当時は薬師堂)へ移した。損傷が著しい。
	18	仁連寺の薬師如来	仁連寺公民館の中に祀られている。45×39cm の木像。寛政 9 年 (1797) 正月修復・大仏師印慶(大坂)、費用は約 4 貫 5 百匁。昭和 17 年 (1942) 4 月にも修復されており、その時の仏師は香住町一日市の植田喜太郎。虫食いが著しい。「仁連寺の御薬師さん」として近郷近在の尊崇を集め、眼病には霊験あらたかとされ、安産の仏様としても崇められている。
	19	仁連寺の弘法大師	仁連寺公民館の中に祀られている。50×25cm の木像。虫食いがあり、塗りも著しく落ちている。
	20	善住寺の金剛界大日如来像	善住寺の本尊。長保年間(999~1004)、開祖覚増上人自らの 1 刀 3 礼(1 刻ごとに念仏を 3 度唱える)による。幸いにも火災からまぬがれて今に至る。言い伝えによると、火災の折に、不思議にも前の川のほとりに立っていたという。農耕神として、特に牛馬の祈願が盛んである。50 年ごとに開帳される秘仏。仏像は台座とあわせて 90cm ほどの高さで、仏像としては小さい方である。脇立不動明王、毘沙門天王、地蔵菩薩、弘法大師像がともに安置されている。
21	善住寺の薬師如来像	阿弥陀堂内左側に安置されてある。元はフタメ谷口の旧熊谷小学校敷地にあった薬師堂の本尊として祀られていた。大正 15 年 (1926) に小学校の拡張増築のために薬師堂が取り壊された時に、仏像は善住寺阿弥陀堂内に安置された。	
工芸品	22	仁連寺稻荷社の石燈籠	明治 43 年 (1910) 10 月 31 日、仁連寺稻荷社の香椎神社境内への移転遷座にともない、同境内に移転建立されたもの。自然石型。正面に「御神燈」と刻まれている。
	23	妙栄信女碑	享保 13 年 (1728) 6 月 7 日造立。高さ約 60cm で、台石は見当たらない。字辻堂の県道上の稲木場跡にある。
	24	熊谷辻堂の廻国供養塔	辻堂の県道の曲がり角に石碑や地蔵が整列している。130×42cm の石碑。正面には梵字、裏面には「為万人講中菩提」、左横には「春供養日本廻国願主 熊谷村 興左衛門」と彫られている。享保 6 年 (1721) 3 月建立。
	25	熊谷辻堂の念仏供養塔	辻堂の県道の曲がり角に石碑や地蔵が整列している。126×69cm の石碑。正面には「文化十三丙子年 願主當所 奉唱念 光明真言宗阿弥陀神呪 各百万遍供養塔 山岳廿齊一日 中土井助作」と刻んである。文化 13 年(1816) 建立。
	26	善住寺の忠魂碑 (1911 年建立)	明治 44 年 (1911) 建立。

4-10 熊谷

分類	番号	名称	概要
工芸品	27	仁連寺の青銅製罎口	万延元年（1860）、味取村氏子中から奉納されたもの。青銅製。銘「万延元庚申願主味取村氏子中」。径 20 cm、厚さ 6 cm。
	28	善住寺の梵鐘	快重上人代の寛文元年（1661）に鑄造されたことが、現存する資料の初見である。享保 4 年（1719）に改鑄されたが、第二次大戦の際に供出。現在の梵鐘は、昭和 22 年（1947）3 月 6 日に新たに鑄造されたものである。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	29	大熊権現堂(熊谷熊野神社) 奉納発句集	文政 10 年（1827）中秋に熊谷の大熊権現堂に奉納されたもので、願主が春扇、世話人が七釜村の柳ト・熊谷村の一声・如心・不明の 4 人、撰者は鳥取の吹万堂・大蕪。縦 45cm、横約 150cm の杉板に合計 48 句がしたためられてる。内容は四季混雑であるが、二方郡・美方郡関係の人の句である。中央に丸い焼印らしきものが押されており、判読困難な部分がある。
	30	熊谷薬師堂納木札	文政 3 年（1820）のもの。花瓶を析谷の川元六兵衛、輪燈を浜坂の井上又九郎が瀬上、香爐・石燈籠を若連中が寄進したことなどが記されている。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	31	香椎神社	祭神は仲哀天皇、神功皇后、武内宿禰、下照姫尊。創立年代は明確ではないが、『兵庫県神社誌』によると、武内宿禰の子孫が、因幡の国法美郡宇部野から 9 人の従者を連れてこの熊谷に来て住み、堂の山に社殿を立てて、仲哀天皇、神功皇后、武内宿禰を祀ったことにはじまるとされる。その後、字宮山に宮殿を移転改築し、本社香椎の宮の他に、宿禰の子孫とその従者 9 人及び紀伊の熊野より熊野神社を迎えて、それぞれ小祠に祀ったため、別名 12 社明神ともいった。慶応 4 年（やや不詳）に奉幣使を受けており、このことから格式の高い神社と考えられる。明治 6 年（1873）3 月に村社となり、同 44 年（1911）に下山神社を合祀している。
	32	熊谷熊野神社	近代社格は無格社
	33	仁連寺稲荷社	縁起・由来等は不明であるが、宝暦年間（1751～1764）の前期頃には小さな祠が祀られていたと考えられる。兵庫県の一大字一社の方針に従い、明治 43 年（1910）10 月 31 日、香椎神社境内に社殿とともに移転遷座された。その後、大正 15 年（1926）と昭和 6 年（1931）の二度にわたる火災からの復興に向けた取組の一環として、昭和 6 年 8 月 12 日、20 年ぶりに仁連寺の地に再び遷座。
	34	善住寺	覚増上人が、この地方の行脚のおり、土地の様子が紀州熊野三山に似ていることから、ここで大誓願が開かれ、山号を熊野山、寺院号を那智院善住寺とつけた。また一説には、熊野権現飛来の霊地であるとして、山号を熊野山とつけたともされる。創設は長保元年（999）2 月。覚増上人が亡くなったのは延久元年（1069）で、境内にその塔が残っている。古来別当職として、香椎神社、熊野権現、十二社神社などの神社を支配していた。元禄 14 年（1701）の火災にあうまでは、近在の末寺 13 ヲ寺をあわせて七堂伽藍が建ち並ぶ立派な寺院であったが、火災により一部の堂宇が残るのみとなり、古記録も灰と化した。宝暦 12 年（1762）に真乘法印が再建。高野山真言宗。
	35	熊谷薬師堂	享保 19 年（1734）8 月薬師堂建立の記録が最も古く、その後数度にわたり再建などの記録がある。昭和 59 年（1984）に改築されて、村の公民館として使用されている。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	36	香椎神社祭礼	10月3日に香椎神社で行われる。
民間説話・俗信	37	熊谷部落の地名の由来	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p50参照
	38	八百比久尼	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p78参照
	39	土んどうの話－熊谷－	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p70参照
	40	仁連寺の「ときび」の話	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p167参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	41	熊谷寺谷遺跡	熊谷川左岸の畑地内の散布地。時代は不明。
	42	金堀鉱山跡	開鉱時期は不明であるが、古くからの鉱山と伝わる。斎の日（仏様の日）にお参りをせずに仕事をしていて落石があり、以後廃山になったとされる。昭和初期から戦後にかけて、数度の廃坑跡調査が行われ、水抜き坑などが発見されている。
古墳・その他の墓	43	阿原1号墳	古墳時代後期の古墳。消滅。
	44	阿原2号墳	古墳時代後期の古墳。乱掘され、石室が露出している。須恵器片出土。
	45	阿原3号墳	古墳時代後期の古墳。直径2～3mで無疵である。
	46	阿原4号墳	古墳時代後期の古墳。3号墳の北側に位置する小円墳。
	47	阿原5号墳	古墳時代後期の古墳。4号墳の北側に位置する小円墳。
	48	阿原6号墳	古墳時代後期の古墳。5号墳の北側に位置する小円墳。
	49	阿原7号墳	古墳時代後期の古墳。幅40cmの墓壇あり。須恵器甕の破片を多数採取。
	50	阿原8号墳	古墳時代後期の古墳。蓋石数個あり。墓石に転用されている。
	51	仁連寺1号墳	古墳時代の古墳。熊谷川左岸の水田の畔に墓壇木口が露出。
	52	仁連寺2号墳	古墳時代後期の古墳。道路工事で半壊。石室が六体地蔵堂に転用されている。石材に楔跡あり。
	53	仁連寺3号墳	古墳時代の古墳。中土井家の庭の丘が小円墳らしい。
	54	仁連寺4号墳	古墳時代の古墳。稲荷神社の基底が直径8m余りの円墳である。
	55	辻堂1号墳	古墳時代後期の古墳。横穴式石室が道路工事で破壊された。
	56	辻堂2号墳	古墳時代後期の古墳。大正6年（1917）の水害の際に遺物が多数出土している。
	57	辻堂3号墳	古墳時代後期の古墳。尾根上に並ぶ小円墳の一つ。
	58	辻堂4号墳	古墳時代後期の古墳。尾根上に並ぶ小円墳の一つ。
	59	辻堂5号墳	古墳時代後期の古墳。尾根上に並ぶ小円墳の一つ。
60	辻堂6号墳	古墳時代後期の古墳。尾根上に並ぶ小円墳の一つ。	
61	辻堂7号墳	古墳時代後期の古墳。尾根上に並ぶ小円墳の一つ。	
62	熊谷1号墳	古墳時代の古墳。小円墳と思われる。	
63	熊谷2号墳	古墳時代の古墳。小円墳と思われる。	
64	熊谷3号墳	古墳時代の古墳。小円墳と思われる。	

4-10 熊谷

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	65	月山古墳	古墳時代後期の古墳。横穴式石室、幅 1.3m、長さ 2m。石材は割られたり墓石に転用されたりしている。
	66	権現神社古墳	二つの谷に挟まれた尾根上に土壇墓らしきものが 2 基ある。
城館跡・ 寺社跡	67	仁連寺跡	中世の寺院跡。仁連寺跡と伝説があり、瓦の破片、土器片などが発見されている。享保 6 年 (1721) 7 月 15 日の大洪水により流失し、その時に流された釣鐘が村のどこかに埋まっていると伝わる。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	68	香椎神社のスギ	香椎神社境内のスギ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周 3.03 m、樹高 35m。
	69	善住寺のヒメコマツ	ヒメコマツ 2 本。ヒメコマツは、樹名のとおり日本の五葉松のうち最も葉が柔らかく、樹形も女性的である。善住寺の庭の一角にあるヒメコマツは、地上 20m の位置で主幹が 2 本に分かれてそびえる。 県指定郷土記念物
	70	善住寺のヒイラギ	モクセイ科の常緑高木。当寺のヒイラギ (1 本) は、秋には白い小さな花をびっしりとつけ、微かな芳香を漂わせる。葉は特有の刺、切れ込みはなく、丸みを持ち、一見してヒイラギとは気づかない。 県指定郷土記念物
	71	善住寺のクスノキ	善住寺境内のクスノキ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周 3.59m、樹高 35m。
	72	善住寺のイチョウ	善住寺境内のイチョウ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周 3.73m、樹高 30m。

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

- ・『幻の寺 仁連寺物語 口伝 金堀鉦山と仁連寺』
(平成 9 年 2 月 15 日、岡本信夫著、産経新聞生活情報センター発行)

